



支部だより No.151

日本山岳会京都・滋賀支部

2023年6月15日

支部長就任の挨拶

支部長 笠谷 茂

第38回支部総会（2023年4月1日）において、支部長就任のご承認を賜り、4月12日の本部理事会にて任命を受けました笠谷（かさたに）です。

私は、山が大好きな1962年生まれの61歳です。出身は兵庫県西宮市です。本格的に山とかかわり始めたのは高校時代に山岳部に入部してからです。六甲山をホームグラウンドとし夏、春には北アルプスに足を運んでいました。山での体験によるインパクトと共に、山を楽しむことを体現されていた恩師に強く影響を受けました。高校卒業後、室蘭工業大学に進学しワンダーフォーゲル部に所属、四季を通して北海道の山々を駆け回りました。GPSがない時代、道なき山を地図とコンパスを頼りに、夏は沢を辿りハイマツの藪を漕ぎ、積雪期はスキー（登山靴で）を駆使していました。その後、就職先が滋賀県であったことで滋賀に居住することになりました。1979年（高校3年）に比良山系で開催された高校総体に兵庫県代表として参加したことには縁を感じます。家庭をもってからも、近郊の山、日本アルプスをはじめ国内各地の山々を、団体には属さず仕事や家庭とのバランスを意識しながら、いろいろな切り口（高い山、秀でた山、人跡の薄い山、歴史を感じる山、地域性を感じる山、登った山を眺める山、島山等）で歴史、植生、動物、地質、地形、気象等に関心を持つことでモチベーションを高め、楽しむことができました。

サラリーマンという生業の中、いろいろな山と接することができたのは、山を愛する多くの方の活動・ご尽力の賜物です。限られた時間での山行を重ねてきた中では、そういった山を愛する方々との接点が希薄であったことは否めません。そして齢を重ねる中、人との繋がりを持つことで視野を広げ、自分の満足だけではなく、自身が得たものを次代に継承したいという思いが強くなってきています。

私が日本山岳会へ入会したのは、2016年（支部設立

30周年の年）の8月、54歳の時です。深田久弥先生の日本百名山にも足跡を残すことができたことが縁で、加賀の大聖寺にある「深田久弥 山の文化館」を訪れた際に出会った当会会員の方との会話を通し、当会に対して興味を持ちました。当会には、各分野に精通した会員が多数存在し、日本全国に活動の拠点があり、幅広いフィールドや情報に接する機会があります。入会により、山や山を愛する人たちと、そこからの情報に接する機会を通して、美しい（厳しくも、豊かで、多様性を持つ）日本の自然、そこから生まれた文化、山に対する知見、思いを深めたいと思い入会届を提出しました。

入会後翌2017年度から委員、2021年度から副支部長を務めさせていただき現在に至ります。1986年3月に京都支部として発足し37年の歴史を有する支部の支部長として、これまで支部を育てて頂いた先輩諸氏への敬意と感謝の気持ちを忘れず、公益社団法人日本山岳会京都・滋賀支部の今後の発展に向けて、継承すべきは継承し、変えるべきは変えることに微力ではありますが尽力していく所存です。入会后、日が浅く会務への理解や人脈が不足している点多々あると認識しています。身の丈に応じたことからしかできませんが、会員の皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

支部長退任の挨拶

松下征文

2023年度（令和5年）第38回総会にて支部長退任をご承認いただきました。

2017年（平成29年）4月の総会で身に余る大役を仰せつかり、田中昌二郎支部長より引き継いで3期6年間、会員の皆様より叱咤激励をいただきましたことに感謝申し上げます。

JAC 京都・滋賀支部 30周年記念山行京滋30山、この最終山行の三上山登山が昨日の様に思い出されます。先輩方の活動実績をどのように引き継いでいくのか、

これからの山岳会としての活動はどう進めていくべきか、会員の高齢化をどうすべきなのか、京滋支部としての課題に取り組んできましたが、まだまだ道半ばにも達していません。

支部山行に参加されている会員は60名前後ですが、若者から高齢の方迄がそれぞれの登山を楽しまれています。この支部山行参加者をいかに増やしていくか、それには少しでも若い新会員を増やすしかないと考えて、会員の皆様には、自分より若い方に入会を勧めてくださいとお願いしました。

コロナ禍の3年間活動は滞りましたが、皆様の努力によりコロナ禍に関係なく若い会員さんが入会されるようになってきました。これからも入会者が絶えないように魅力ある山行を続けていきましょう。

支部長在任中は会員の皆様には何かとご無理をお願いし、心よりのご支援をいただき誠にありがとうございました。

支部役員として永年共に活動してこられ、今季退任される方々にも心より感謝申し上げます。

これからも新支部長、新役員の下で支部の継続・発展にさらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。

「日本山岳会京都・滋賀支部2023年度 (令和5年度)第38回総会」報告

伊原哲士

皆様には日本山岳会京都・滋賀支部の諸活動について日頃よりご協力を頂き感謝申し上げます。

日本山岳会京都・滋賀支部2023年度(令和5年度)第38回総会は4月1日(土)に京都・鴨沂会館にて開催しました。新型コロナウイルスでの「蔓延防止措置」解除になり1年が過ぎました。新型コロナウイルスは収束した訳ではなく引き続きの警戒を要する中での開催でした。高齢会員や遠方の会員も多く様々な面での配慮を要した中での開催となりました。

【要旨】

- ・2023年4月1日(土)に鴨沂会館にて日本山岳会京都・滋賀支部第38回総会開催。総会議長は、総会司会者の駒井治雄委員の発議で松下征文支部長を選任しました。冒頭、3月5日に急逝された川北有会員に黙祷をしました。
- ・4月1日の総会は、総会出席予定者33名。総会委任状36人。支部会員総数137名中、69名の参加(委

任状含む)で総会成立を確認しました。

- ・議決内容は「2022年度事業報告」「2022年度決算報告」、「2023年度支部新役員選出」、「2023年度事業計画(案)」「2023年度予算(案)」の5点。全てが可決成立しました。

松下支部長は今期で退任。次期支部長に笠谷茂副支部長を本部理事会に京都・滋賀支部の総会の意思として推挙しました。本部理事会で協議の末、正式に任命される予定です。

- ・新型コロナウイルス禍での「蔓延防止措置」解除された中で様々な支部例会が取り组まれました。大槻雅弘委員の尽力による京都新聞「京都の山々」や「近江の山々」の出版活動の取り組みと八木透監事の尽力による「信仰と京都の山」の連載の取り組みの報告がありました。村上正古道調査委員長と岡田茂久会員を中心とした取り組みで支部の「古道調査活動」等がほぼ調査を終えました。その貴重な資料が総会会場で展示されました。安全登山活動の一つとしての「日本山岳会の特別事業補助金の対象事業としての「健幸登山教室」は旺盛に実施されました。「健幸登山教室」に参加された一般の人材の中から日本山岳会会員や日本山岳会準会員に加入するという出来事もありました。「登山文化の継承」「若手登山家の育成と次世代への支部の継承」「安全登山」「自然保護等の日本山岳会としての諸活動の取り組み」などで課題は山積していることを確認しました。

- ・記念講演は、民俗学者の八木透氏(佛敎大学教授)の「京の河川と橋をめぐる歴史と伝承」についてのお話でした。

今は穏やかな鴨川の流れも昔は「暴れ川」であったことを、八木先生は、白河上皇の言葉として「天下三不如意(ままならぬこと)」は「鴨川の水、双六の賽、山法師(延暦寺僧兵)」と語り聴衆をひきつけました。「豊臣秀吉以前の鴨川と橋」は、国家による維持管理は脆弱な頃でした。三条以南の鴨川は、平安京の下層民が集住する場所でもありました。1461年(寛正2年)の大飢饉で京は8万2千人の餓死者を出した悲惨な地でした。無数の遺骸が、四条橋・五条橋下に埋葬された鴨川でもありました。

「豊臣秀吉以降の鴨川と橋」は、無縁性や境界性、宗教性は薄れてきました。鴨川は公共交通路としての意味を持ち始めました。賑いの中で、鴨川の河川敷は刑場となり見せしめの場ともなりました。

近世になる「京都人のくらしと鴨川」については、霊的な存在は全て川下の彼方(難波の海)へと送られ、京に疼く様々な疫病、その他の神仏も全て無に化すと信じられていたといわれました。

「京の河川と橋をめぐる歴史と伝承」は随分と重たい

話しでありました。鴨川は、京の人々の歴史と伝承、宗教性の中で連綿と続き、そして今がある、そんな感想を持った貴重な講演でした。

講演会後の懇親会は河原町蛸薬師「台所てんや」で21名の出席でした。

【2023年度支部役員】

松下征文支部長が今期で退任。支部委員として残留します。

笠谷副支部長が次期支部長に推挙されました。

野村綾子委員は、新監事となります。

新委員として藍野裕之委員、仲井照雄委員、藤綱珠代委員が承認されました。

中川寛監事、大槻雅弘委員、宮永幸男委員、山村孝夫委員は退任します。

「支部だより」編集委員が幣内規男副支部長、藍野裕之委員のみで2名が欠員となります。支部「古道調査」委員長は村上正委員が引き続き務めます。

他の役委員の変更はありません。

【2023年度京都「今西錦司賞」】

2023年度の京都「今西錦司賞」は関本俊雄会員に決定しました。『今西錦司氏とつながる新宮山彦ぐるーぷとの連携と交流。更に新宮山彦ぐるーぷへの秩父宮山岳賞受賞に至る様々な活動への功績』が評価されました。

選考委員会（齋藤惇生委員長、塚本瑠一委員、杉山イタル委員、岡田茂久委員）を代表して齋藤惇生委員長より選考についての詳細な説明が総会でありました。

《日本山岳会京都・滋賀支部 2023 年度事業計画》

1. 例会山行、講習会、総会、講演会等

(京都・滋賀支部)

(4月)

2023年4月1日(土)

日本山岳会京都・滋賀支部総会 鴨沂会館

2023年4月7日(金)～10日(月) 未知の山旅

四国・物部川源流の山 担当：笠谷支部長

2023年4月15日(土) 歴史と文化の山旅

忍辱山円成寺から柳生街道を歩く

担当：伊原事務局長

2023年4月16日(日) 写真サークル

大江山「芽吹き季節を感じる」 担当：野村監事

2023年4月16日(日) 健幸登山教室1

比良堂満岳東稜 担当：松下委員

2023年4月23日(日) 健幸登山教室2

げんき村クライミング 担当：松下委員

2023年4月29日(土)

シャクナゲ山行 担当：松下委員

(5月)

2023年5月4日(木)～7日(日) 健幸登山教室3

陀羅佛小屋伯・唐松岳 担当：松下委員

2023年5月13日(土) 北山探訪

ハナノ木段山 担当：八木監事

2023年5月14日(日)

今西錦司レリーフの集い 担当：駒井委員

2023年5月15日(月) 山のスケッチ

加茂川北大路橋から比叡山を描く 担当：山田会員

2023年5月20日(土)～21日(日) テント泊登山

比婆山、吾妻山 担当：笠谷支部長

2023年5月27日(土) 北山探訪

中山 担当：田中顧問

(6月)

2023年6月6日(火) 北山探訪

品谷山・廃村八丁・卒塔婆山 担当：笠谷支部長

2023年6月18日(日) 健幸登山教室4

金比羅クライミング 担当：松下委員

2023年6月中旬～7月上旬

岩稜登攀 担当：村上委員

(7月)

2023年7月15日(土)～17日(月)

巨木と山岳展望の旅

新潟方面 担当：山村会員

2023年7月22日(土) 北山探訪

地藏杉 担当：田中顧問

2023年7月28日(金)～30日(日) 健幸登山教室5

唐松岳 担当：松下委員

2023年7月29日(土)

大文字山納涼山行 担当：笠谷支部長

(8月)

2023年8月6日(日) 写真サークル

丹波町琴滝 担当：野村監事

2023年8月19日(土) 歴史と文化の山旅

元山上の千光寺 担当：伊原事務局長

2023年8月26日(土)～27日(日) 健幸登山教室6

岐阜ソーレ谷(沢上谷) 担当：松下委員

(9月)

2023年9月5日(火) 北山探訪

白倉岳 担当：八木監事

2023年9月8日(金)～10日(日) 健幸登山教室7

西穂高岳 担当：松下委員

2023年9月16日(土)～18日(月)

巨木と山岳展望の旅

山梨方面

担当：山村会員

2023年9月 文学の山

夜々ヶ池

担当：松下委員

(10月)

2023年10月14日(土)～15日(日) テント泊登山

金剛堂山、白木峰 担当：田中顧問

2023年10月22日(日) 写真サークル

おにゅう峠 担当：野村監事

2023年10月28日(土) 北山探訪

向山 担当：田中顧問

(11月)

2023年11月11日(土) 北山探訪

シンコボ 担当：笠谷支部長

2023年11月19日(日)～24日(金) 未知の山旅

青ヶ島、八丈小島 担当：笠谷支部長

2023年11月 五支部懇親山行

2023年11月 健幸登山教室8

御在所岳 担当：松下委員

(12月)

2023年12月2日(土) 年次晩餐会

2023年12月3日(日) 写真サークル

京北町 担当：野村監事

2023年12月14日(木)

武奈ヶ岳の日 担当：松下委員

2023年12月16日(土) 北山探訪

忘年山行 担当：田中顧問

2023年12月16日(土) 歴史と文化の山旅

近つ飛鳥古墳群と河内源氏の夢の後

担当：伊原事務局長

2023年12月 健幸登山教室9
(1月)

担当：松下委員

2024年1月7日(日)

初詣山行

担当：松下委員

2024年1月16日(火) 北山探訪

灰屋山

担当：八木監事

2024年1月17日(水) 支部新年会

2024年1月 健幸登山教室10

赤坂山ワカン、スノーシュー

担当：松下委員

(2月)

2024年2月10日(土)～11日(日)

野麦峠スキー例会

担当：山村会員

2024年2月 五支部スキー山行

2024年2月 健幸登山教室11

堂満岳北壁中央稜

担当：松下委員

2024年2月

スキー山行

担当：笠谷支部長

(3月)

2024年3月15日(金)～17日(日)

長崎市最高峰八郎岳登山と長崎「さるく」旅

担当：伊原事務局長

2024年3月23日(土) 北山探訪

ホザピ山

担当：笠谷支部長

2024年3月 健幸登山教室12

げんき村クライミング

担当：松下委員

2. 支部役員会、各種委員会、活動、その他

(京都・滋賀支部定例役員会)

毎月第1水曜日に開催(祝日の場合は第2水曜日)

(その他委員会)

「今西錦司レリーフを守る会」 適時開催

「今西錦司賞選考委員会」

「京都新聞出版編集委員会」 適時開催

機関紙「支部だより」編集委員会 適時開催

151号 2023年6月15日 発行予定

152号 2023年9月15日 発行予定

153号 2023年12月15日 発行予定

154号 2024年3月15日 発行予定

(部会活動)

自然保護部会

山行部会

海外部会

日本山岳会京都・滋賀支部「古道調査委員会」

ホームページ委員会

ダンダ坊森づくりの会

京都・滋賀支部友の会

(支部関連の会)

京都陀羅佛会

藤尾の森づくりの会・里山クラブ(滋賀県「結いの森(藤尾の森)」)、定例作業日毎月第2土曜日)

2023年度 日本山岳会京都・滋賀支部役員

顧問：斎藤 惇生 酒井 敏明 塚本 瑠一 薬師 義美 田中昌二郎

支部長：笠谷 茂※

副支部長：幣内 規男

監事：野村 綾子※ 八木 透

事務局長：伊原 哲士

委員：藍野 裕之※ 浅原 明男 上田闊三郎 宇都宮道人 駒井 治雄 須藤 邦裕

竹下 節子 土井 文雄 仲井 照雄※ 藤網 珠代※ 松下 征文 真名子栄一

村上 正

(※は新任)

活動報告

野麦峠スキー例会報告

山村孝夫

昨年はコロナが急増したので例会は中止にしましたので、2年振りのスキー例会となります。

四条大宮を7時40分に出発し、木曾福島道の駅に11時30分着。昼食後、宿泊するペンション野麦の里へ。途中、境峠付近には南岸低気圧による積雪が有り雪の心配はなさそうでした。

ゲレンデには13時15分に。早速、上部に上りました。最上部2150mよりの滑走ですが、未整地雪面を求めて早くから多くのスキーヤーが来ていたのが如実に分かる状態で、コブだらけの斜面で、その上に湿質の雪だからゴマカシのスキーは通用せず、しっかりと体重移動しなくては、ちゃんと回ってくれませんでした。

おまけに体調がすぐれず、一滑りしただけで息が切れて、その上に膝痛が出て普通に滑るのがやっとで、とても快調にはと行きませんでした。その替わりにお天気が大変良かったので大パノラマを楽しめました。正面に乗鞍岳を、その左側に御嶽が、右側に十石山・焼岳・笠ヶ岳・穂高連峰が広がっていました。何も言うことなしであります。

実施日：2023年2月11日（土）～12日（日）

参加者：山田和男 山村孝夫

（会員外）内村百合子、川勝雅文

スキー山行

若狭駒ヶ岳(780.1m)

笠谷 茂

支部スキー山行は、コロナ禍もあり2018年3月4日の金糞岳北尾根以来（2019年3月10日に計画した護摩堂山は雪不足で中止）の実施となった。今回は参加しやすい山行とすべく、スノーシュー・わかん組も設定した。コースは、スキー組スノーシュー・わかん組共通で道の駅「若狭熊川宿」に集合し、河内川ダム湖（除雪末端）まで車で分乗し移動、湖畔を南西に進み林道から東尾根へ取付き若狭駒ヶ岳を目指し往路を下山、

各組で状況に応じ引き返し点を決めることとした。積雪状況・天候が心配な中、参加者は当初9名（スキー組4名、スノーシュー・わかん組5名）の申込みがあったが、最終的には6名（スキー組2名、スノーシュー・わかん組4名）となった。

山行4日前の2月21日（火）には滋賀県南部平野部でも積雪があったものの、この冬は1月下旬に強い寒波があった後は比較的穏やかで積雪は少ないことが見込まれた。週間天気予報では弱い南岸低気圧が発生・通過するとの事であり、前日段階で降雨予報であれば中止も考えたが、2月25日9時の予想天気図では関東の東に低気圧が進み冬型となり、上空1500mでのマイナス6度線（平地で雪となる目安）が近畿中部まで南下、その後26日にかけて紀伊半島へ。また、湿数が3度以下の湿潤領域（降水の目安）に入らないことから降雨の可能性は低いと考えた。

2月25日（土）、道の駅「若狭熊川宿」に7時45分集合の予定であったが、自身は早く到着したので、車がどこまで入れるか河内川ダムへ行ってみたところ、通常除雪末端となる白石神社から湖岸の舗装道路を2kmほど進んだダム湖最上流のピクニック広場（駐車場あり）まで入れることを確認し道の駅「若狭熊川宿」に戻った。7時20分、全員が揃ったので車の分乗は行わず各車で出発。ピクニック広場の前にある駐車場に移動。車窓からは頂上付近には雪がついていることは確認できた。

ところどころ晴れ間もあるが風が冷たく感じる中、準備を整え出発（8時00分）。各々のギアを背負い雪の無い林道に入る。やがて残雪が現れ始めるが、沢を外れ尾根に向かう屈曲点（290m付近）を過ぎても所々地面が見えており、最初のヘアピンカーブ（330m付近）からようやく積雪がつながる。二つ目のヘアピンカーブを過ぎ最初の小尾根との交差点（標高393m）8時55分着。ここが登山道のある東尾根へのショートカットルートの取付きだ。ルートを見るとかろうじて雪がつながっているの、ここからそれぞれのギアを履き林道を外れ小尾根を進むこととする。

9時10分出発。標高差およそ100mの尾根上は歩きやすく、9時25分、東尾根の展望台跡に到着。ここから登山道（夏道）に沿って東尾根を進む。一部雪が切れているところもあったが9時45分、標高555m付近で休憩。ここからは十分な積雪があった。650mの小ピークは北側を巻き沢上の地形に入ってから東尾根に戻り高度を上げる。10時45分、740mピーク。急登は終わりブナが混じる広い尾根にトレースを刻む。11時00分、高鳥トレイル分岐（754m）。11時15分、若狭駒ヶ岳頂上着。時折晴れ間が覗く中、西南西の百里ヶ岳から、北東の三十三間堂山を越えて延びる江若国境の山々、

東には琵琶湖も望めた。

12時05分、下山開始。スキー組、スノーシュー・わかん組に分かれて出発。無線機（特定小電力トランシーバー）の発信で現在地を共有し進む。スキー組は、もなか状の雪に苦しみながらも主稜線の北東側から高島トレイル分岐ピークを巻いて斜滑降で滑走、登って来た東尾根の北面から尾根に戻り、林道が交差する565mからは雪が少ない尾根を避け林道を滑った。スノーシュー・わかん組は往路を下った。13時00分、展望台跡に集結。ここでスノーギアを外し13時15分発。往路を辿りショートカットルートで林道に戻る。淡い日差しの中、雪が緩みだした林道では会話が弾んだ。14時00分、ピクニック広場駐車場（下山）。

スキー山行は積雪状況、天候に左右される側面もあるが、次年度も多くのメンバーが集える企画として実施したい。

実施日：2023年2月25日（土）

参加者：須藤邦裕（L）、笠谷 茂（SL）、村上 正、竹下節子、藍野裕之、池ノ内直樹



若狭駒ヶ岳山頂にて

近畿二府四県の低山一等三角点を登る

第6回 大阪府 俎山山行

池上清司

まず、俎石山はなんと読むか??? “まないたいしやま” または “そせきざん”

共に使われているようですが、“まないたいしやま” が一般的の様です。

さて、歩きはじめて鳥取池からいきなりの急登。ひと汗かいて尾根歩きになる。多少のアップ・ダウンはあるものの、なだらかな稜線歩きです。紀泉高原の深い山並みなど、変化に富んだ景色を楽しむことができ



俎石山

ました。

また、海浜部と近接した山系で、大阪湾や紀淡海峡、淡路島、友ヶ島、関西空港島などが臨めるルートですが少しかすんでいたのが残念でした。

登山道の中で所々斜面を梳った幅の狭いところがあり、気を付けなければなりません。事故はなく、好天に恵まれ楽しい山行の一日でした。運転をしていただいた方、有り難うございました。

2023年3月12日（日）

08:00 JR 京都駅八条口 「都ホテル京都八条」前に集合

08:05 京都駅出発

09:55 鳥取池駐車場出発 登山開始 標高：150m

11:45 俎石山到着（昼食休憩40分）一等三角点 点名：俎石山 標高419.9m

12:45 大福山到着（休憩10分）標高：427m

13:10 懺法ヶ嶽西峰到着（休憩10分）

13:25 懺法ヶ嶽東峰到着（休憩10分）標高：318m

13:40 井関峠到着（休憩20分）

14:45 鳥取池駐車場到着

17:10 京都駅到着

山行行動時間 4時間50分 歩行距離：10.8km 標高差277m

実施日：2023年3月12日（日）

参加者：大槻雅弘（L）、中川 寛、大倉寛治郎、能田直子、幣内規男、岡田茂久、竹下節子、安東勝浩、仲井照雄、藤綱珠代、方山宗子、（友の会）池上清司

「近畿二府四県の低山一等三角点を登る」例会を終えて

大槻雅弘

「近畿二府四県の低山一等三角点を登る」例会を担当するに当たり、何か他の山行との「違い」を打ち出すには何がいいか。答えは、私の山行ジャンルに「三角点探索」があるが、中でも特に「一等三角点」に拘りを持っています。そこで、身近な場所の「二府四県の一等三角点」それも低山を選ぼうと。今の支部会員の方なら、低山なら参加し易いのではないかと思ひ、この6回の例会を組みました。例会を終え纏めとして、特徴など項目別に記してここに報告とします。

この一年間、お陰様で下表の通り多くの方のご参加を頂きました。ご参加いただいた皆さんありがとうございます。次回はまた、一味違った山へご案内いたしますので、ご一緒しましょう。

1 参加者一覧表 府県別・参加者 15 人 延べ人員 55 人

府県	大槻	中川	幣内	大倉	山崎	岡田	竹下	能田	藤網	仲井	安東	川壽	池上	方山	計
兵庫	○	○	○	○	○	●			○			○			8
和歌	○	○	○		○		●					○			6
滋賀	○	○	○	○	○	○	○	○			○	●	○		12
京都	○	○		○	○			○	○	●					7
奈良	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○					10
大阪	○	○	○	○		○	○	○	○	○			●	○	12
計	6	6	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	2	1	55

注：●印は各回のレポート報告者。滋賀県の欄で安東さん二重丸は夫婦。

2 登った一等三角点 7 点

- 兵庫県 志方城山 271.21m
- 和歌山県 友ヶ島 119.71m
- 京都府 多祢寺山 556.25m
- 滋賀県 雨壺山 137.03m 深溝村 86.76m
- 大阪府 組石山 419.87m
- 奈良県 神野山 618.38m【箕輪 495.6m 四等三角点】

【参考】近畿二府四県には一等三角点は 65 点ある。

注1 奈良県の神野山の登山後に、点名「箕輪」四等三角点を探索した。これを探索したのは、

ここの標石には等級が刻字されていないという珍しい三角点だからである。恐らく私の知る限りでは、ここだけではないかと思う。

注2 多祢寺山には全国に 48 ヲ所しかない「天則点」が一等三角点の横にある。

3 登った山の最高峰と最低の三角点

- 最高峰 奈良県 神野山 618.38m
- 最低 滋賀県 深溝村 86.76m

【参考】近畿の一等三角点

- 最高峰 兵庫県 氷ノ山 1509.77m
- 最低 大阪府 蘇鉄山 6.97m

4 登った三角点の特徴

兵庫県の三角点は、広いお城跡にあり見晴らしも良い。和歌山の三角点は、島の中。明治時代の砲台跡も見ると価値あり。

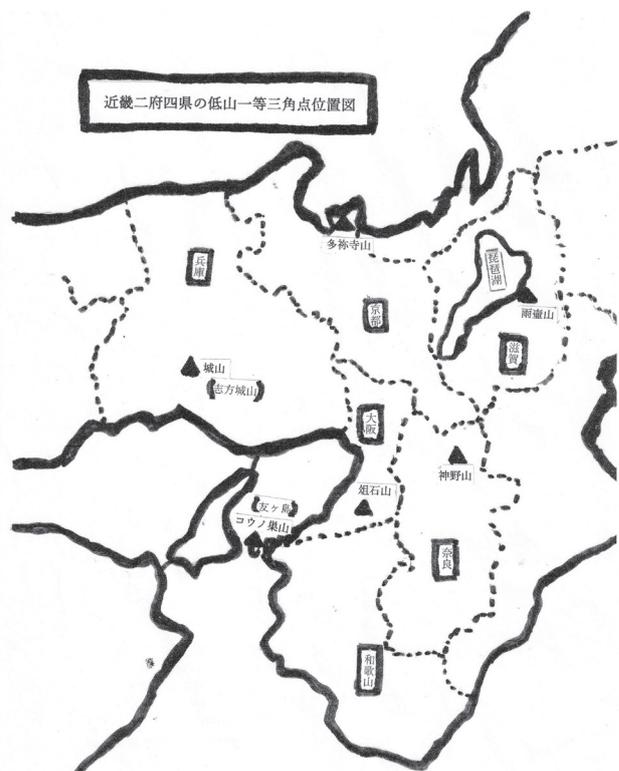
滋賀県の三角点は、琵琶湖の湖岸にあり。今は住宅地になっている。

京都府の三角点は、舞鶴港が一望でき、スタート地には、古刹「多祢寺」があり。

奈良県の三角点は、山頂に展望台があり、360 度見晴らし良い。

大阪府の三角点は、残念ながら欠けている。ただコース案内板は、彫り込まれ立派。

5 二府四県一等三角点位置図



終わりに

一等三角点は、必ずしも山頂にない。岬の先。道路のマンホール蓋の中。自衛隊の基地。無人島の藪の中。日本一の富士山頂にはない。全国973点の頂点は、南アルプス赤石岳。拘りを持つということは、山への思い入れがなければいけない。三角点一つ。当支部創設者の今西錦司氏は「山頂の三角点は登山のゴール」。

北山探訪

タカノス(Ⅲ滝谷)、朝日峯(Ⅲ梅畑)

笠谷 茂

2022年度の山行新企画として立ち上げた「北山探訪」の年度最終弾として、タカノス(653.8m、基準点名:滝谷)から尾根伝いに朝日峯(688.1m、基準点名:梅畑)を目指し、細野口バス停よりタカノス、田尻峠、朝日峯、松尾峠を経て、谷山川から高雄に下る縦走コースを計画した。

当初の週間天気予報では、雨の確率が高いという中、状況は日に日に変化していた。雨天中止も頭によぎる中、前日夕方の予報では朝まで雨が残るも午後には回復すると見込まれたので決行を判断した。

3月25日(土)6時40分、京都駅烏丸口側のJR西日本バス乗り場(JR3)集合。6時45分発の周山行きバスに乗り。小雨が落ちる中、桜が満開近い京都市内を抜け周山街道へ。下山地となる高雄を越えて笠トンネルを抜けると雨は上がり天候は回復に向かっていた。しかしながら、前日からの雨の影響で一部藪漕ぎが見込まれるタカノス経由朝日峯までの尾根の通過は、水滴でずぶ濡れになる可能性が高いので参加者の合意のもとタカノス登頂は諦めて細野口から林道経由で廃村

田尻を経由し松尾峠に向かい、朝日峯をピストンし高雄へ下ることとした。

8時00分、細野口にてバスを下車。屋根があるバス停でコース変更の内容を再度全員で共有し準備を整え出発(8時15分)。田尻谷川に沿った林道田尻谷線を南下する。ウジウジ谷分岐で愛宕裏参道と別れる。440m付近の橋を渡ると左岸側に伐採地が広がり視界が開ける。稜線付近ではタムシバが所々で白い花を咲かせている。河原にはミツマタの薄黄色い花が現れ始める。9時30分、林道を外れ比較的新しい橋で右岸に渡り田尻峠直下の広場で休憩。低い石垣が残っていたので昔は畑であったと思われる。田尻峠までの標高差は100mほどだが、地形図に記された峠への道の形跡は確認できなかった。9時45分、廃村田尻。集落跡には石垣が残り「田尻彦之命、春子姫之命」と刻まれた石碑が鎮座している。およそ80年前(昭和17年頃)まで生活が営まれていたという。石垣の間にはミツマタが群生しており、廃村の風景に早春の彩を添えていた。林道は更に伸び、重機で整備しただけの作業道に形を変え松尾峠まで達していた。2018年9月の台風で倒れた木々を搬出や植林、治山工事の作業道として整備されたのだろう。10時45分、松尾峠着。林道から尾根上の登山道に取付き朝日峯(Ⅲ梅畑)に向かう。

11時00分、朝日峯着。天気は回復し霞んだ空の下周辺の山々を望むことができた。食事を摂り記念撮影後に静かな山頂を後にする(11時55分)。松尾峠を越え大きな地蔵様の前を通り谷山川へ下る。川音が近づきトラバースになったあたりで倒木が道を塞ぐ箇所が残るも容易に越すことができ13時10分、谷山川6号橋着。谷山川沿いの林道を進み14時05分、清滝川合流点着。標高差50mほどを登り返し、14時15分、高雄バス停到着(下山)。14時16分発のバスに乗り。順次帰宅に便利なバス停で下車し流れ解散となった。

目的地の一つ、マイナーピークのタカノスへ行くこ



朝日峯(基準点名:梅畑)にて



ミツマタが群生する廃村田尻付近

とはできなかったが、早春の北山にて終始会話が弾む和やかな山行であった。

実施日：2023年3月25日（土）

参加者：笠谷 茂（L）、上田典子、竹下節子、今中三恵子、
（友の会）緒方由子

山歩会例会

比叡山・裳立山

中川 寛

今年のはじめての山歩会、3月例会は回峰行者道の無動寺坂を山歩する。このコースは、支部の30周年記念山行で歩き、また古道調査でも詳しく調査されている。満開の桜が咲き誇る京阪・坂本比叡山口駅に9時に集合。大垣からの参加者も加え、総勢10名が集まった。

穴太積みの石垣がある道を日吉大社へと向かい、大社入り口を左折して進んで行くと「比叡山・延暦寺・大原登山口」の標柱がある登山口に着く。

しばらくは舗装路やコンクリート道床が残る林道が続くが、やがて地道となり、登山道へと続いて行く。小さな堰堤を越え、階段状の急登を登っていると後ろから足早に登ってくる人の気配がする。振り返ると白装束に身を固め、未開の蓮華の葉を模った笠を被った3名の行者様が登ってこられる。慌てて道を開けると、草鞋で土を踏みしめ足早に去って行かれた。まさしく行者道を歩いていることを実感した。しばらく進むと祠があり、回峰行中にこの場所で亡くなられた行者様を供養する地藏様とのことである。

よく踏みしめられた山道を進んで行くと、やがて「紀貫之の墳墓」への分岐があり、祠を包むように根を張った巨木が立っている。岩盤が露出した道を過ぎると、左側が崩落した箇所が現れ、足元に気を付けながら慎重に進む。やがて琵琶湖の展望が広がる「遠見岩」があり、しばし展望を楽しんだ。二つ目の「紀貫之の墳墓」への分岐を過ぎ、歩を進めると堰堤が現れ沢にでる。石がごろごろした沢を渡り、急坂をジグザグに登っていくと獣除けの金網があり、扉を開けて無動寺の境内に入った。

境内はきれいに掃き清められており、厳かな気配が漂っている。山靴で歩くのが憚られる雰囲気の中、静かに石段を登っていくと読経の声が聞こえてくる。途中でお会いした行者様が修行をしておられるのだろうか。明王堂から阿加井の聖水を通り、最後の緩やかな坂を登って12時ちょうどにケーブル「延暦寺駅」着。

ケーブルで登ってこられた山内さんと合流した。

春霞で遠くまでは見えなかったが、駅テラスからの展望を満喫した後、思い思いにランチタイムとした。のんびりとした時間を楽しみ、皆で4月からの山歩会をどうするか話し合ったあと、集合写真を撮っていると初老の外国人夫婦が近づいてきた。どうやら下山するルートを探しているらしい。どちらに行くのかと尋ねたら大津とのこと。地図も持たず、軽装のまま大丈夫か心配だったが、地図を示して無動寺坂で坂本に下りられることを説明しておいた。無事に下りられますように。

下りは、裳立山から日吉東照宮に下りるコースを歩く。駅舎の南側を建物に沿って下る。始め急坂が続くが、やがて緩やかな下りとなり、紀貫之の墳墓への分岐へと続く。分岐を右に進み墓を訪れた。琵琶湖の眺望がすばらしいこの地に墓をと紀貫之が望んだとのことであったが、残念ながら眺望はなかった。元の道に戻り、最後の急坂を下ると比叡山高校のグラウンド裏に出た。日吉東照宮にお参りし、京阪坂本駅に15時30分に着き解散した。

実施日：2023年3月28日（火）

参加者：竹下節子（L）、中川 寛（SL）、大倉寛治郎、
笠谷 茂、西田 均、能田直子、宮井秀樹、
山内孝文、
（友の会）橋本裕子、
（大垣山岳会）桐山美代子



無動寺坂にて

「山歩会」報告(2)

中川 寛

2012年4月4日のポンポン山から始まった「山歩会」も、2023年3月28日の比叡山・無動寺坂で支部例会としての11年の活動を終えることになった。2012年4月～2017年12月の6年間の実施記録は支部日より130号に鮎川さんにより報告されており、その後の2018年2月～2023年3月の5年間の実施記録を下記表にまとめてみた。

2019年からのコロナ禍の影響もあり、実施回数が35回と少なくなっているが、延べ356人が参加している。2012年第一回からの合計では、89回の例会が実施され、延べ816人が参加しており、平均9.2人と毎回多くの参加者があり、高齢会員の登山活動に寄与できたのではと考えている。

年間計画を立て、支部例会として私が担当する山歩会は終わることとなったが、会員の高齢化は今後も続き、高齢会員が声を掛け合いグループとして里山登山を楽しむ会は今後も継続が望まれる。

今年度からは、山歩会例会に参加していたメンバーを中心に、担当者を交代しながら活動を続けることになった。支部のホームページ会員掲示板に計画を都度掲載しますので、多くの会員の参加をお待ちしています。

表 「山歩会」実施記録 (2018年2月～2023年3月)

実施年月日	山名	参加人数
2018年 2月27日	音羽山	12
3月27日	堂山	15
5月22日	中山(大阪)	9
6月26日	鬼ヶ城、烏ヶ岳	11
9月25日	行者山	15
10月23日	箱館山	11
11月27日	大谷山	11
2019年 3月26日	日野岳、天下峰	13
4月27日	竜王山(大阪茨木)	9
6月25日	笹間ヶ岳	10
7月23日	三郎ヶ岳	8
9月24日	岩尾山(甲賀)	10
10月22日	芦生の森	17
11月26日	胎金寺山、高山	9
12月10日	天王山、十方山	8
2020年 3月24日	長野東山、愛宕山(信楽)	11
9月22日	小谷山	8
10月27日	黒尾山(周山)	9
11月24日	阿星山	13
12月8日	鷹ヶ峰三山	8
2021年 3月23日	鏡山(野洲)	15
6月22日	朝日山、丁塚山(亀岡)	9
7月27日	織山	4
9月28日	弥仙山	8
10月26日	高取山(奈良)	6
11月27日	小塩山	10
12月28日	野山(長岡京)	9

2022年 3月30日	箕作山、太郎坊山	12
4月30日	竜王山(奈良)	8
5月31日	雪野山	8
6月28日	三嶽(兵庫)	9
9月27日	賤ヶ岳～山本山	10
10月25日	古城山、梵天山(水口)	11
11月22日	剣尾山(大阪)	10
2023年 3月28日	比叡山(無動寺坂)	10
	35回	356名

未知の山旅シリーズ(第12回)

四国(物部川流域の山)

竹下節子

2023年度春の未知の山旅シリーズの行先は、2020年春に計画しコロナ禍の影響で中止となった四国(物部川流域の山)で御在所山、天狗塚、石立山を目標の山とした。

<予定ルート>

4月7日(金): 滋賀・京都・大阪⇒物部川河口⇒御在所山(御在所山登山口からピストン)⇒ライダーズイン奥物部(泊)

4月8日(土): ライダーズイン奥物部⇒天狗塚(ヒカリ石登山口から反時計周り周回)⇒ライダーズイン奥物部(泊)

4月9日(日): ライダーズイン奥物部⇒石立山(別府峡登山口から時計回り周回)⇒ライダーズイン奥物部(泊)

4月10日(月): ライダーズイン奥物部⇒大阪・京都・滋賀)

<天候などを考慮した予備ルート>

白髪山(白髪山登山口からピストン)

出発日の4月7日は午前中に寒冷前線が四国を通過する予報となり、御在所山登山は中止を決定しピックアップ時間を遅らせて出発。8日の天狗塚は前日の雨の影響での増水、寒冷前線通過に伴う寒気流入があったが予定通り踏破。9日はメンバーの体調不良への対応があり山行は中止し別府峡周回の散策を行った。費用@2.0万円/人(宿泊、移動)。以下、今回唯一の実働となった天狗塚山行について報告する。

4月8日、その頂は言葉に尽くせないほどの別世界だった。

フリースの耳当帽子、ネックウォーマー、チェーンアイゼン、予備手袋、ダウンジャケット、テルモスに

お湯とカップ麺を装備に加え、今日の「天狗塚」に備える。

天気予報は傘マークから橙色の晴れマークに変わった。快適な山歩きになると思いつつも油断できない四国の未知の山旅。時々予期せぬことに遭遇する。

ヒカリ石登山口 904m 7時 20分歩き始める。昨日の雨で地面は濡れている。沢の水量も多く登山道が水の通り道となった所もある。堂床キャンプ場 869m まで降って沢沿を歩く。2つ目の橋を渡ってミツマタが花盛りの間を抜けて進む。堂床 930m の道標を見たら 30分程で八丁ヒュッテに着く。その前に私たちはミツバツツジの咲く美しい場所で休憩した。

八丁ヒュッテからはお亀岩・天狗塚方面へ進みカンカケ谷を登る。苔むした緑の倒木や大小の岩々が散在する荒れた風景になった。登山道は沢伝いにザラザラ石と落ち葉の斜面をトラバース気味に歩くようになる。眼下の美しい流れは勢いよく白いしぶきをあげている。滑り落ちないように先をいく。

歩き始めて 2 時間ほど、今朝、先に出た若者 2 人が早くも下山してきた。話を聴くと「この先の丸太の橋は渡れない」と、彼等は昼から仕事なのでやむなく引き返してきたと言う。私たちも戻るのか？あの難所を引き返すのはいやだと皆思った。9時 30分笠谷リーダーがいち早くルート of 偵察に行ってくれた。私たちは待機する。暫くしてリーダーが戻ってきた。確信できる渡渉ルートを見つけてくれたようだ。そしてお蔭様で無事に通過できたのだが、激しい流れの上を岩から岩へ跳び移るのは、私には決死のジャンプだった。・・・「もし流されたらこのスリングをつかめ！」と関本さんが要救助者確保の体制で待機してくれた。今思えばドキドキする場所だった。9時 56分全員通過。沢は変わりなく流れていた。ほっと息をつき休憩。これから高度を上げていく。踏み跡は不鮮明でピンクテープとケルンを参考に進んで行く。視野は広いが起伏のある樹林帯で自分の目の高さ意外は死角になる。見逃さないように歩く。コバイケイソウ、トリカブト、神の木と呼ばれるカツラの木、いったい何本束ねて立っているのだろう。名も知らぬ花も咲いていた。空は白い雲と青空で明るく晴れていた。快晴を期待しながらお亀小屋まで約 50 分の急登に行く。雪？岩と木の間に僅かに雪がある。花びらかと思えば雪がちらついている。さっきまで晴れていたのに瞬く間に曇り空になる。四国の山の洗礼に会うのか？

11 時 50 分お亀避難小屋に到着。寒さ対策をして素早く暖かいランチをとり 12 時 15 分に出発。フリース帽子、ダウンがとても役に立つ。小屋を出て見上げると、桜の花が満開の斜面？私の脳みそが疑うほど今の季節に不相応な光景が見えた。コメツツジに霧氷？

の花だった。登るにつれて変化する。朽ちた道標やコメツツジにエビのしっぽ、足元は時折雪が積もる道。更に西へ進むと一面の四国笹とコメツツジの霧氷が流れるように連なっている。12 時 50 分天狗峠到着。東には西熊山、三嶺、その奥には剣山、次郎笈も顔を見せている。天狗峠にザックをデポして目的の天狗塚に向かう。何度かアップダウンを繰り返してコメツツジの霧氷を通過すると天狗塚 1812m の頂上だ。周囲 360 度は視界を遮るものがなく雪色と笹色 2 色の大草原、そこは言葉に尽くせないほどの別世界だった。腰の高さほどのコメツツジは純白の雪氷をまとい。風は激しくガスと共に空高く踊り青い空を一瞬にかき消してはまた青く塗りかえる。しばらくその絶景を目に写しながら峠に戻る。14 時天狗峠より地蔵の頭をあとにする。2 本のフィックスロープを頼りに緩急繰り返し下降していく。一段一段高度を下げて最低鞍部 1482m まで降る。東に進路を向けると高度差 500m ほどで登山口だ。なだらかにアップダウンを繰り返し不明瞭な道を辿る。リーダーのルートファインディングが心強い。そして想定外にもまた 2 箇所 of 渡渉が待ち受けていた。渡渉はもう無いと思っていたので一瞬戸惑う。心を括って崖の登りや流れの中を一步一步安全に通過した。そして八丁・三嶺の分岐に出る。ここから馴染みの道だ。あと 30 分程歩けばヒカリ石登山口に着く。

長かった一日を振り返り最後の行程を愉しんだ。17 時 59 分私達 5 人の山は無事に終わった。ご一緒して下さいました仲間へ感謝します。学びの場になりました。ありがとうございました。

実施日：2023 年 4 月 7 日（金）～ 10 日（月）

参加者：笠谷 茂（PL）、関本俊雄、竹下節子、今中三恵子、（友の会）中塚智子

PL：Planning Leader（日程管理など山行全体のマネジメント）



霧氷が纏うお亀岩のコルにて



天狗峠より三嶺、奥に剣山



地蔵の頭より天狗塚（左）

写真サークル

大江山

野村綾子

支部に写真サークルがあればいいなと思い企画しました。山に向かえば心が動く場面に出会うことは多くあります。美しい山容も、森の中に差す光も、苔のついた大樹もたくさんの場面で感動があります。それを上手に残したいと思うのですが、歩きながらパシャパシャと撮った写真ではその良さを表現するのは難しいです。だから写真を撮ることを目的とした例会にしました。カメラは一眼レフでなくても、コンパクトデジカメや携帯スマホのカメラでもOKです。「いい写真とは何？」先ずそこがわかりません。きっと記録写真ではなく、後から見たときにその時の感動が思い出される、伝わる写真なのでしょう。さて、そんな写真をどうすれば撮れるのでしょうか？

今回のテーマは「芽吹きの季節を感じる」です。お

目当ては大江山のブナの林。幣内車と野村車の2台に分乗して阪急洛西口を出発。京都縦貫道を走る車窓からはすっかり芽吹いた広葉樹の新緑が鮮やかに色を増しているの見える。「少し日程が遅れたかな」と心配になったが、大江山グリーンロッジから見た山の木々はまだまだ冬芽ようだった。「ブナだけじゃないから、広葉樹の芽吹きは他にもあるから」と鬼嶽稻荷神社に向かう。この日は神社の清掃日で地元の方が社や周辺の清掃を行っておられた。天気予報は午後から雨、雷雨のところもあるという。「晴れよりも曇りくらいの方が写真撮影には向いている」と言いながら、神社横の急階段を登り始めると早くも頬に雨粒を感じる。「どうする？」と聞かれるけれど「行くよ！」と迷いなく進む。酒呑童子の供養塔への分岐まで来たところで、もう一度「どうする？」と聞かれる。そこから少し先にブナ林があったと思うが雨も気になるので今回は供養塔へ行くことにした。途中の杉林の中に群生していたシャクナゲが咲いていればさぞや美しいことだろうと写真のイメージを膨らませている。供養塔近くの大きな木の幹に付いた苔の緑を背景のまだ冬枯れの斜面が引き立ててきれいだ。そこで岡田さんがペットボトルに汲んできた水を幹の上から苔に流す、すかさずそれを写真にパチリ！楽しいけれど上手くは写せない。広葉樹林の中に低木の白い花が咲いている、情景はいいけれど画面の切り取りが難しい。心配していた雨は降らず、天気は良くなっていくが下山することにした。登る時は大きすぎて気付かなかったイタヤカエデも下山時には幹に付いた苔と小さな芽吹きに感動して皆それぞれカメラを向けた。その後はドライブ気分で鍋塚林道の終点で昼食を取り、二ノ瀬溪谷を見て、天岩戸神社と元伊勢外宮豊受神社へ行く。天岩戸神社はいかにも神が降り立ったような溪谷の岩壁にはりつく社で、パワースポットとして知られているらしい。豊受神社には龍登の松と龍燈の杉と呼ばれる御神木があり、松は正に



天岩戸神社の楓

龍神が螺旋を描き天に登る様のように見える。派手さはないが清々しい気持ちになれる神社だった。皮のついたままの丸太材で組み合わされた黒木鳥居の前で記念写真を撮り帰路へ向かう。途中休憩の丹波PAでは予報通り雷雨になった。さてさて、感動が伝わるようないい写真は撮れただろうか？家に戻ってパソコンで確認してみると、どれも上手く撮れてはいない。最近ではスマートフォンで撮った写真の方が良かったりする。初回から上手くは撮れないけれど上達目指して頑張ります。写真に詳しい方、ぜひご教示お願いいたします。

実施日：2023年4月16日（日）

参加者：野村綾子（L）、中川 寛、幣内規男、
岡田茂久、方山宗子、上野陽子

健幸登山教室1 堂満岳

ポッカ・トレーニング

藍野裕之

前夜までの雨は止んでいた。京都・滋賀支部の比良山系の拠点であるレスキュー比良小屋に集まり、まずリーダーの松下征文さんのバネ秤でザックの重量を測った。水入りのペットボトルなどを使って10kg以上にしてくる約束。山小屋泊の1泊登山の最低重量だそうだ。今回はポッカ（歩荷）・トレーニング。宿泊登山を想定し、ある程度の重量の荷上げに慣れるのが目的である。わたしは、テント、2本のスリングのほかの小物に2ℓの水を2本。55-75ℓのザックは12kgほどだった。ここで怖気づく。水を1本抜いた。出発は8時近かった。

池ノ内直樹くんがわたしの参加を不思議がる。

「夏、槍ヶ岳に登りたいんだ。いっしょに行かない？」

本心である。61歳だが密かな目標に掲げているのだ。「いいっすねえ」。調子よく答える彼は50歳。まず、彼が先頭に立った。次にわたし。後ろは24歳の笹原祐真くん。この3人はみんな昨年度の入会である。わたしは同級生だと思っている。最後尾松下さんが見守り、ときに声掛けしてくれる。

「登り始めて30分ほどでひと休み。呼吸調整だな。ここからは50分から1時間おきに休むんだ」

最初の休憩後、先頭の池ノ内くんの歩く速度が上がった。彼は体力がある。今年2月の例会で雪の若狭駒ヶ岳に登った際も、山岳ガイドでもある須藤邦裕さんとワカンでガシガシ雪の急斜面を登っていった。そのとき、スキーで登っていた村上正さんがいった。

「自分のペースで歩くのは楽だ。パーティーを組んだらいちばん遅い人に合わせないといけない。人に合わせるのには力がないとできない。あいつにはそこを覚えてもらってリーダーに育ってもらわなあかん」

それを池ノ内くんに伝えた。「なるほど〜っ!」。調子がいい。ただ、速度を下げた後ろを気にし始めた。

堂満岳東山稜の登山道は、おおむね2段になっている。緩やかな登りから急登がきて、再び緩斜面となってまた急登だ。最初の急登に差し掛かると松下さんの指示でわたしが先頭になった。歩き始めると、2番目に移動していた笹原くんが「早いんじゃないですか？」という。これはわたしの登りの癖だ。速度を上げたほうが勢いづいて楽なのだが、数歩進んで歩が止まる。「早く歩いてすぐ休むより、ゆっくりでも休まず歩き続けるほうが早いですよ」

「なるほど」。池ノ内くんの受け答えが移った。遅く歩くのは楽ではない。幸いだったのは、ザックを買うときにショップで調整してくれたことだ。ウエスト・ベルトを骨盤に合わせ、腰で重量を支えるのだといわれた。肩が痛くならなかったのは、それが功を奏したからだろう。でも、膝の上の筋肉がヒクヒクいう。休憩でザックを下ろすとホッとした。

そこはシャクナゲの花園だった。

「今年は2週間ぐらい早いな」と松下さんが驚く。比良山系のシンボル・フラワー。すでに咲き始めの真紅から色を薄めているものがあった。

再び歩き始めると2度目の急登が現われた。先頭は笹原くんに代わった。彼は社会人になってから登山を始めたというが、精力的に各地の山を登っている。体



夏の宿泊登山を目指して大型のザックを背負った。

力も頭抜けていて、彼の後ろのわたしは遅れ始めた。「ピークが見えたぞ。堂満岳の頂上はあそこかな？」

松下さんがわかっていて、そういう。ニセのピークなのだ。案の定、急登は続いた。それでも本物のピークは近いらしい。それまでは後ろを気遣っていた笹原くんだが、気にしなくなった。わたしは必死だった。そして、シャクナゲに囲まれた堂満岳に着いた。11時半。頂上はまだ花期には早いようだった。「帰りは金糞峠ですぜっ」

握り飯を頬張っていると池ノ内くんがニヤニヤしていった。彼は冬の堂満ルンゼの山行で金糞峠を経験したらしい。わたしは初めてだ。下り始めてニヤニヤの意味がわかった。かなり急だ。やがて、ひと抱えほどの花崗岩がゴロゴロあるガレ場に出た。松下さんが先頭だ。

「浮き石に気をつけて。よく見て踏まないように。見るのは足もとだけでなく、3歩ぐらい先だよ」

金糞峠から比良川が流れ出て正面谷をつくる。この花崗岩は古くから灯籠の石材として、あるいは砕いて枯山水の白砂として重宝されたという。白く美しいが曲者。ルートもわかりにくい。さらに正面谷は岩雪崩が多い場所でもあるそうだ。「青ガレ」との標識は道標であり、落石の注意喚起でもあるのだろう。

下りながら、松下さんがレスキュー比良の活動で経験した遭難救助のことを話す。ほんの小さな出来事から死亡事故へ発展していることに驚いた。原因のほとんどは道迷いから始まっているという。では、滑落は？「わき見、よそ見だな」と松下さん。

正確に確認していないが、下りの所要時間は2時間少しか。林道に出た。

「登山のトレーニングは登山しかないよ」

リーダーのひとつには、体力をつけることに加えて身構え、心構えを備えることも含まれている。比良小屋に着いて再びザックの重さを測る。わたしのザッ



堂満岳の山中では、すでにシャクナゲが開花していた。

クは8.5kg。飲んだ水と食べた昼食の分1.5kgの減量だ。「テント泊なら最低15kgだ。これに慣れないと」

この夏、テント泊で槍ヶ岳は実行できるだろうか。

実施日：2023年4月16日（日）

参加者：松下征文（L）、藍野裕之、池ノ内直樹、
笹原祐真

齋藤惇生先生にお招き頂いて

大槻雅弘

2022年秋。齋藤惇生先生（元日本山岳会会長・初代京都支部長）から「大槻君、白鬚岳から10年たったので、その時世話になった人達に、一度集まってもらおうと、思っているのだがなあ」と、話された。年が明け松の内が過ぎて「事故当日と、その後山へ行行った人も来てもらうように」と連絡。暫くして「順正に2月25日と連絡しておきましたから」という先生から電話。そして一月の末、齋藤先生から下記の挨拶文の葉書が届きました。

2012年11月4日に、白鬚岳で滑落事故を起こしてから早10年が経ちました。皆様の適切な救助活動のおかげで事なきを得、今日まで無事に医師としての活動を続けられており、感謝申し上げます。

つきましては、当日の救助活動、事故対応、また、後日の事故現場調査などにご協力いただきました関係の皆様にお集まりいただき、下記の通りお礼の会を催したいと思っておりますのでご案内申し上げます。

齋藤惇生

齋藤先生から頂いた挨拶文を、事故当時の関係者12人に、宛名を書いて発送。集まったのは呼ばれたメンバー12人と、齋藤先生と息女の宮城かんりさんを含めて14人が出席しました。

「大槻さん、およばれで何もせんのかあかんで」と参加者の一人から電話が掛かる。すぐに山用品店へ走り思案して、小物を買う。

2月25日。当日の進行等を先生にお話すると「任せますので、よろしく」と。

皆さんの記憶をたどってもらうために、事故当時の報告が掲載された「支部だより」110号と111号をコピー

して最後のページに雪山賛歌を入れた。宴は、謡にリコーダも交えて、各メンバーの思い思いの一言。雪山賛歌を全員で歌い幕。

先生共々楽しいひと時を過ごし、次は白寿の祝いに我々が先生をお招きすることを約束して別れた。

山登りは 阿蘇に始まり サルトロカンリ
白寿まで 寿（いのちなが）し 今宵集う順正の宴



白鬚岳事故から10年が過ぎて

中川 寛

2012年11月4日に、「今西錦司先生を偲ぶ集い」の記念山行として行われた白鬚岳登山で、斎藤惇生顧問が滑落し、頸椎骨折の重傷を負われた事故が発生してから10年の歳月が流れた。これを機に、斎藤顧問から当日の救助活動、事故対応、また後日の事故現場調査、支部例会山行における行動指針作成等に関わった関係者をお招きいただき、南禅寺順正で宴を催していただいた。

当日（2023年2月25日）は、顧問のご息女かんり（1962.7.24 サルトロカンリ初登頂にちなんでのお名前とのこと）さんも出席され、参加者12人全員で事故を振り返り、顧問の無事を改めて喜びあった。

大概さんの司会で宴が始まり、はじめに斎藤顧問の方から事故当時を振り返り、事故のこと、その後のリハビリのこと等のお話があった。なぜ事故が起こったのか、躓いたのか、ふらついたのか、自分でも分からず、気が付いたら滑っていて、そのうち転がり始め、自分ではどうすることもできず、このままでは死ぬなと思った時、樹のウロにすっぽりと埋まり止まることができた。やおら手を動かすと動いた、脚を動かすと動いた

のでホッとしたとのことであった。その後、救急車で吉野病院に運ばれ、頸椎骨折が明らかとなったが、尿意を催し尿瓶で用を足して腎機能にも問題ないことを確認できたと医師らしく当日の状況をお話された。また、新河端病院での治療は、3ヶ月以上の間、首を完全に固定しての治療で大変だったこと、回復後に医師としての活動ができることを目指して、事故後8kgしかなかった握力を注射ができるように回復するためリハビリに励んだこと、時間が十分にあったので、中国語の習得に励んだことなど大変な努力をされた様子をお聞きした。

その後、参加者それぞれが事故当時のことを思い返し話をしたが、顧問の無事が奇跡だったことを改めて実感した。宴もたけなわとなり、謡やリコーダ演奏など余興も飛び出したが、最後に斎藤先生の白寿の祝いには全員が駆けつけることを約してお開きとなった。

「白鬚岳事故報告」は支部だより110号P.5に、事故を受けて策定された「支部例会山行における行動指針」は支部だより111号P.21に掲載されているので一読願いたい。

図 書 紹 介

フリゾン・ロッシュ著 石川美子訳
『結ばれたロープ』
2020年 みすず書房 3800円

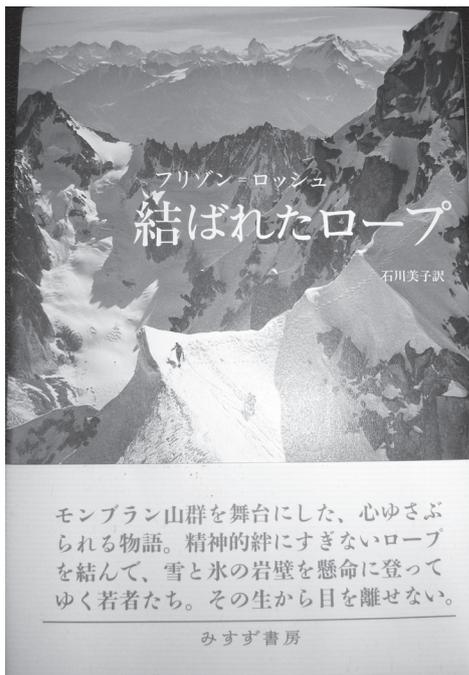
八木 透

本書は1941年にフランスで、『Premier de cordee』という原題で刊行された名著とよぶにふさわしい古典的山岳小説である。著者はフランス人のロジェ・フリゾン・ロッシュで、彼自身がシャモニーの山岳ガイドであったことから、いわゆる想像による山岳フィクションではなく、著者の山での実体験に基づいた記述であるだけに、臨場感あふれるリアルな物語に仕上がっている。訳者の石川美子も、「あとがき」で「百年近く前のアルピニズムを背景とした物語であるにもかかわらず、古びてしまったという印象をあてない。読むたびに時代をこえた新しい発見があり、したがって読めば読むほど深みと魅力を増してゆく本なのである」と記述しているように、本書はまさしく時代を超越して、今日まで色あせることなくヨーロッパアルプスの魅力と、山に生きる人々の深い人間愛と熱い絆を今日に伝

え続けている。

本書の原題である「Premier de cordee」とは、フランス語で「登攀パーティーの先頭で登る者」という意味であり、それは具体的には登山ガイドを意味した。本書には公認登山ガイド、すなわち「先登者」を夢見ながら訓練に励む若者たちが複数登場する。物語の始まりは、ペールという名の若きアルピニストが、ベテランガイドの助手としてモンブランに登頂した帰路に、シャモニーでトップガイドと称賛されていた父親が、ドリユ峰の岩壁で、客の無理な要求に応えたために落雷で死亡したことを知って大きな衝撃を受けるところから始まる。実は、この出来事は著者のフリゾン・ロッシュの実体験でもあった。すなわち、ロッシュは、1925年9月にモンブランに登頂した後、敬愛する先輩ガイドがドリユ峰で雷に打たれて死亡したことを聞き、大きなショックを受けている。物語のスタート地点において読者に強いインパクトを与え、その後次々と紡ぎ出されてゆく深遠な山岳愛と人間愛を読者の心に注ぎ込んでゆくという、本書の桁外れの魅力の背景には、単なるフィクションではない、このような著者の実体験が存在するのである。

本書には、モノクロではあるが20世紀初頭のシャモニーの美しい山岳写真がふんだんに挿入され、読者を100年前の美しきヨーロッパアルプスへと誘っている。みずず書房の本だけにやや高価ではあるが、2度3度と読み返してもその都度新たな感動が溢れだし、決して飽きることはない。まさに古典名作と呼ぶにふさわしい山の物語を、JACの皆さんにはぜひご一読いただきたいものである。



『天路の旅人』(沢木耕太郎)

藍野裕之

近年、表現を小説にまで広げていた沢木耕太郎が、原点に戻るかのようにして書き上げたのが本作だ。昨年10月の発行以来、たちまち増刷。年末には読売文学賞「随筆・紀行」部門の受賞となった。挑んだのは西川一三(1918～2008)である。人生や人柄に焦点を当てた評伝ではない。彼の人生のうちの約8年にフォーカスした。

西川は戦中の1943年に、現在は中国河北省に組み入れられている張家口から、寧夏、甘肅、青海と歩き、鎖国に近い状態のチベットに入った。さらにヒマラヤを越えてインド、ネパール、ブータン、シッキムへと歩を進めた。独立したばかりのインドで憲兵に捕えられたのが49年。翌年に強制送還された。「8年」とは、この期間だ。

彼は帰国後、筆をとって数奇な旅を長い文章にした。それは20年以上たった72年に『秘境西域八年の潜行』として芙蓉社から全3巻の大作として実を結んだ。同書は後に中央公論文庫となり、近年は中公文庫BIBLOで抄版となった。沢木耕太郎は旅の記録を読んだ。そして、まだ存命だった西川に面会を申し込んだ。

沢木は彼の著作で疑問点に多くぶつかっていた。それを本人に正し、自分でも調べた。すると記憶違いやそもそもの事実誤認が判明する。天皇の命を受けて密偵となったのは思い込みに過ぎなかったり、7回だと書いたヒマラヤ越えは実際には9回だったり……。さらに生原稿が発見され、編集者が入れた赤字に間違いがあることもわかった。こうして書かれた同書は、随所に本人の感情を盛り込んで西川の旅を正確に再現した書となった。

当時、現在の中国河北省から内モンゴル自治州には蒙古連合自治邦があった。モンゴル遊牧民の知事に当たる旗長を首長にしての半独立国家である。これは表向きで、実際は満州国に続いて日本が樹立した傀儡政権。そこに日本の軍人が天下って蒙古善隣協会という財団法人が設立された。協会は病院、学校、研究所を創設したが、そのひとつに興亜義塾があった。ここは工作員の養成学校であった。西川はこの興亜義塾を卒業し、ロブサン・サンポー(チベット語で「美しい心」と名を偽って旅に出た。日本軍の勢力外だった西北の地の事情を調べ、日本政府に報告するという責務を自身に課して。

沢木は西川の責務や日本軍の思惑には深入りしない。

それより関心は旅そのものであり、旅人としての西川だ。彼がやっと終戦を知るのはチベットである。蒙古自治政府の発行した紙幣は紙屑だ。西川は現地で肉体労働にありついたり、物乞いをしたりしながら旅を続けた。沢木が描く彼は、命の危機に遭ってさえ淡々と対処し、ただ旅に身を任せている。勧められるままにチベットでは密教修行に身を投じ、インドでは現地で知り合った仏教徒と釈迦由来の地を訪ねた。その足跡は、天空に近いチベット高原、ヒマラヤでの仏教の広がりやダブり、その意味でも「天路」だが、戦中戦後の動乱の中だから正体すら隠して成立した、近現代の世では起こり難い天の幻のような道行きという意味でも「天路」である。

じつは、同書は京都・滋賀支部に縁が深い。西川一三が卒業した興亜義塾を運営していた蒙古善隣協会は西北研究所という組織をつくった。同書にはわずかに記されているに過ぎないが、この研究所の所長となったのが、わが支部設立の発起者である今西錦司さんだ。所員にはまだ大学院生だった梅棹忠夫さんもいた。「インドは敵国であるイギリス領や。ヒマラヤには南から取りつこうにもできへん。だから、ジリジリと近づいていって北から登ろうという魂胆やった。研究の仕事とは別に、みんな内心そう思って赴任したんや。西北研究所は純粋に学術研究所やった。ただ、戦争が長引いていたらわからなかった。イギリスの民族学者の調査を日本の軍部が利用することはビルマで起きていたんや。それと同じようなことに巻き込まれていたかもわからん」

と梅棹さんから聞いたことがある。加藤泰安、中尾佐助という名も所員名簿にある。梅棹さんは計画実施直前に結核が見つかって脱落を余儀なくされたが、今西

さんを含め、みな戦後に日本人初めての8000m峰登山として実施された日本山岳会のマナスル登山に加わった人々だ。戦中の大陸での密かな夢は、かなり本気だったのだ。

本書は、京都・滋賀支部にゆかり深い人物たちが残した書物との併読がいい。動乱の時代の旅、登山、探検がふくよかに蘇ってくる。



旅の最中の西川一三。『秘境西域八年の潜行』より

自己紹介欄

◎矢野達子（会員 No.17020）

初めまして。新入会の矢野達子です。

子育てもほぼ終わり50を過ぎて、中学校からの仲良しの友達と京都近郊の山を歩き始めました。でも2人ではなかなか山域も広がらず登山の山行内容もすぐ頭打ちになりました。そこで10年前、京都府山岳連盟の登山学校に入学しました。現在は京都ゼニーツクラブに在籍しております。そして引き続き登山学校でも参加者の山行のお手伝いをしております。

昨年末、登山学校で指導されている駒井コーチに誘って頂き、古道調査の山行に参加させていただきました。如意越え古道のこと、如意寺跡のこと、ログの取り方などを教えて頂きました。昼食後にロープワークの練習もありとても楽しかったです。新しい知識や技術を学ばせて頂けるととても嬉しく思いました。

山野草や樹木を観察したり、写真を撮ったりすることが好きです。自然観察や巨樹を訪れる山行を楽しみにし



沢木耕太郎『天路の旅人』新潮社 2400円（税別）

ております。古道調査、クライミングや雪山山行も楽しみにしております。また、夏は沢登り、冬は山スキーにも挑戦したいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

◎瀬崎暢子（会員 No.17026）

初めまして。新入会の瀬崎暢子と申します。出身は東京ですが京都在住 30 年余りです。山好きな両親に連れられ、子供のころから東京や近郊の低山を中心に山に登っていました。20 代、30 代は仕事や子育てなどで忙しく山から離れていました。更年期を明るく過ごすために、なにか運動をと思い 40 代半ばからランニングをするようになり、再び山にも登りはじめました。40 年ぶりくらいに登った白馬岳山頂から見た絶景に感動して、これからは山の技術や知識を習得してあちこちの山に登りたいと思いました。数年前、初めて雪の武奈ヶ岳に登った時に美しい雪景色に魅了されました。それからは雪山がとても好きになりました。諸先輩方のご指導の下、技術を磨いて色々な雪山に挑戦していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

◎藤網珠代（会員 No.17027）

この度、友の会から正会員になりました藤網珠代です。いつもいつもなんでしんどいのに登ってるのか自問自答しています。

そして山頂に到着した時のなんとも言えない開放感。

生きてて良かったな、と思えます。

よたよた登山ですがどうぞよろしくお願ひいたします。

◎佐々木一成（会員 No.17029）

新しく入会しました佐々木一成と申します。現在は大学院の修士課程に所属をしています。私は高校の山岳部で登山を始め、一昨年まで大学のワンダーフォーゲル部に所属をして縦走中心の登山を行っていました。これまで組織での縦走登山が中心であり、そうしたスタイルに慣れ親しんでいました。部活の引退によって所属先がなくなり、自身の登山スタイルを考え始めた際にゼミの先生より JAC を紹介して頂き、入会致しました。

さて、これから登りたい山、取り組みたい活動ですが沢登り、バリエーションルート、厳冬期登山などこれまで出来なかった登山スタイルに取り組みたいと考えています。その他、これまで不得手であった動植物に親しむ山歩きや、あるいは自身の専攻である民俗学や歴史学と山といった多様なスタイル、視点で登山と山に親しもうと考えています。

技術、知識ともにまだまだ未熟であり、諸先輩方から沢山勉強したいと考えております、これからよろしくお願ひ致します。

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

歴史と文化の山旅

元山上口から修験道の聖地、千光寺を歩く山旅

千光寺の開基は役行者。大峰山を開く前にここで修行した為、元山上と言う。生駒山口神社から清滝石仏群を訪ねる。千光寺の行場も少し覗く 8km を歩く。帰路は東山駅へ抜け解散する。夏なので、希望者は街中の秘湯とも云われる「音の花温泉」を案内し温泉を楽しみ解散したい。

実施日：2023年8月19日（土）

集 合：近鉄生駒線元山上口駅改札午前9時00分集合。

行 程：近鉄生駒線元山上口駅→生駒山口神社→首なしのお地藏さん-二本杉の根っこの小石仏→清滝石仏群（ゆるぎ地藏・はらみ地藏・ほら吹き地藏・清滝地藏・五智如来）→鳴川の民家-千光寺（行場）→東山駅（解散）→音の花温泉-東山駅（最終解散）

申 込：8月12日（土）までに担当者まで

山行の目安：体力2、技術1、歩行距離8km、約5時間

交通費概算：1820円（近鉄京都駅起点）

京都から 近鉄京都駅（7:25 急行天理行き）-西大寺駅（8:12 快速急行神戸三宮行き）-生駒駅（8:35 生駒線普通王寺行き）-元山上口駅

大阪から 大阪難波駅（8:10 快速急行奈良行き）-生駒駅（8:35 生駒線普通王寺行き）-元山上口駅

持 ち 物：ハイキング装備一式、弁当、水筒、雨具、その他必要な物

（申し込み・問い合わせ）

伊原 哲士

健幸登山教室

日程、実施日等変更になることがありますホームページで確認をお願いします。

西穂高はロープウエイが工事のため9月に延期します。

健幸登山教室 2023-5

実施日：2023年7月28日（金）～30日（日）

目的 地：唐松岳、会員対象

行 程：陀羅佛小屋⇒第一ケルン→丸山→唐松岳（小屋泊）
同ルート下山-帰宅

集 合：参加者打ち合わせの上決定

地 形 図：1/25000 図「白馬町」

内 容：夏山のお花畑と尾根歩き

山行の目安：体力3、技術2

担 当 者：松下征文

参加費：交通費、宿泊費

申 込：山行申込書をメールで7月10日迄

参加者3名以上で実施

健幸登山教室 2023-6

実施日：2023年8月26日（土）～27日（日）

目的 地：ソーレ谷（沢上谷）

集 合：参加者打ち合わせ

地 形 図：1/25000 図「高山」

内 容：不思議な流れの沢

山行の目安：体力2、技術2

担 当 者：松下征文

参加費：交通費、キャンプ費

申 込：山行申込書をメールで8月15日迄

参加者3名以上で実施

健幸登山教室 2023-7

実施日：2023年9月8日（金）～10日（日）
目的地：西穂高岳、会員対象
行程：新穂高ロープウェイ→西穂山荘泊→西穂高岳
 →上高地山研泊
集合：参加者打ち合わせ
地形図：1/25000 図「笠ヶ岳」、「穂高岳」
山行の目安：体力3、技術3
担当者：松下征文
参加費：交通費、宿泊費
申込：山行申込書をメールで8月25日（金）迄
 金毘羅岩場事前トレーニング参加者のみ
 参加者3名以上で実施

北山探訪

「原点の山に新しい愉しみを求めて」、2023年度も
 山を巡り愉しさを感じましょう。

地蔵杉△ 898.9m（Ⅲ地蔵杉）

長老ヶ岳～頭巾山稜線上の秀峰
実施日：2023年7月22日（土）
集合場所・時間：参加者に連絡
行程：南丹市美山町鶴ヶ岡⇒豊郷⇒洞⇒洞谷川林道
 駐車→洞峠→・723→・775→地蔵杉頂上（三
 等三角点：点名地蔵杉）→・793→・742→
 神谷（カンダン）・298→豊郷
地形図：1/25000 図「島」「口阪本」「和知」「丹波大町」
山行の目安：体力3、技術3 [注] 少々藪漕ぎあるかも
担当者・リーダー：田中昌二郎
申込：7月12日（水）迄に所定事項記入のうえ、
 FAX またはメールにて担当者まで

白倉岳△ 949.7m（Ⅱ村井村）

マイナーピーク探訪
実施日：2023年9月2日（土）・・・年間スケジュール
 から変更となっています
集合場所・時間：参加者に連絡
行程：朽木栃生→南岳→中岳→白倉岳山頂→烏帽子
 岳→村井集落
地形図：1/25000 図「久多」・「北小松」
山行の目安：体力3、技術2 [注] 少々藪漕ぎあるかも
担当者・リーダー：八木 透
申込：8月28日（月）までに所定事項記入のメー
 ルで担当者まで

大文字山納涼山行

夕暮れの古都を眼下に納涼のひと時を過ごしませんか。
 ご家族、ご友人等とご一緒の参加も歓迎します。
 銀閣寺前から、火床までの往復です。

実施日：2023年7月29日（土）
集合場所：銀閣寺前
集合時間：17時30分
解散予定：20時30分
担当者：笠谷 茂
申込：参加者は上記場所、時間に集合。

会務報告 支部役員会

第 445 回支部役員会

2023 年 2 月 1 日（水） 18:30 ～ 20:30

（於）鴨沂会館 出席：11 名 欠席：15 名

「報 告」

1 月に実施された支部新年会、健幸登山教室 11・比叡山について報告。

支部長・事務局長報告

2023 年度支部役員人事に関する事項、会員異動等について報告

会計、山行部会、古道調査委員会

現状及び今後の計画について報告。

「計 画」

2 月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「そ の 他」

京都新聞出版発行本についての現況報告。

第 446 回支部役員会

2023 年 3 月 1 日（水） 18:30 ～ 20:50

（於）鴨沂会館 出席：12 名 欠席：14 名

「報 告」

2 月に実施されたスキー例会・野麦峠スキー場、スキー山行・若狭駒ヶ岳について報告。

支部長・事務局長報告

2023 年度支部役員人事に関する事項、熊野古道集中登山イベント計画への協力依頼等について報告

会計、山行部会、古道調査委員会

現状及び今後の計画について報告。

京都今西錦司賞について

選考委員会より関本俊雄氏の推挙あり、承認。

「計 画」

3 月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「そ の 他」

京都新聞出版発行本についての現況報告。

第 447 回支部役員会

2023 年 4 月 5 日（水） 18:30 ～ 20:45

（於）鴨沂会館 出席：12 名 欠席：7 名

「開催挨拶」

新支部長挨拶

2023 年度組織・役割分担の整合について

「報 告」

3 月に実施された低山一等三角点例会・組石山、北山探訪・タカノス、山歩会例会・比叡山無動寺坂、4 月に行われた日本山岳会京都・滋賀支部総会について報告。

支部長・事務局長報告

新支部長就任の本部理事会（4 月 12 日）承認、支部

所在変更手続き中。

コロナ対応の変化、暖冬の影響への注意喚起、メンバーリスト見直しの取組み等について報告

総務部会

会員動向について報告。

山行部会、遭難対策部会、出版関係

連絡事項など報告。

「計 画」

4 月、5 月第 1 週に実施予定の山行計画について協議、承認。

（笠谷記）

＝ あ と が き ＝

コロナ騒動も、一段落して、マスクから少しは解放されたが、しばらくぶりに友達に会ったが、お互い年にとって、顔のしわも増えてビックリです。年金は増えないけれど、将来の日本は何処に行くのだろうか？

北陸新幹線も、敦賀以西のルートも未だ決まらず。別に田舎暮らししてる人達が便利になる訳でもないし、日本の人口も、急激に減るのに、新幹線もいずれは今のローカル線と同じ運命を辿るのでは。日本の美しい自然を後世に残すことこそ、最重要課題です。今頃になって、花粉症は、国民病なんて、よく言うよ。いっこうに、前に進まない政策は、新幹線も花粉症対策も、その場しのぎの政策です。山に登って、鬱憤ばらし。

＝ 次号 152 号 予告 ＝

2023年9月15日発行 原稿締切7月31日(月)
原稿送付先 編集担当 藍野裕之

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより151号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6
松下征文方
日本山岳会京都・滋賀支部
発行者 笠谷 茂
編集者 幣内規男
印刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8
(株)土倉事務所
TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

関西発日帰り 海をながめる山歩き

草川啓三著 ◎絶景を楽しむ
若狭湾、熊野灘、瀬戸内海、紀伊水道…関西から日帰りで登れる海を見晴らす絶景スポット30コース！海をながめに山へかけませんか。 1760円



森の巨人たち

草川啓三著 ◎巨樹と出会う―近畿とその周辺の山歩きで出会ったスギ、ブナ、トチ、カツラなど、様々な巨樹の圧倒されるようなフォルム、個性、生命力。出会いの喜びと魅力を語る。 1980円



極上の山歩き

草川啓三著 ◎関西からの山12ヶ月 春夏秋冬ひとの心をとらえる珠玉の山の中から、達人がすすめるランキング上位の30山を新スタイルでガイドする。 1650円



新刊 いとしのやさしい町

福山聖子画・文 ◎ようこそレトロな滋賀の町へ
いつまでも残しておきたい、ふるさと滋賀の原風景にまた会ったために、まちを歩き、まちをスケッチして言葉を紡いだ画文集。 1980円



《出版記念》
福山聖子絵画展
6/22(木)~27(火)
るーむぶな
大津市和邇今宿800-1
クレストール和邇105号
電話 077-594-3573

水のしらべ 琵琶湖のうた

福山聖子画・文
滋賀の風景を描き、言葉をつむぐ福山聖子の叙情あふれる画文集。山から流れ出す水を琵琶湖へとたどる風景からは旅へと誘われる。 1760円



ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 <http://www.nakanishiya.co.jp/>
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095 表示は税込価格です



【木津屋橋本店】
〒600-8248
京都市下京区大宮通木津屋橋下ル
営業時間：10：00～19：00
休 日：無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー 075-341-7702

2F/スポーツ車コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】
〒601-8205
京都市南区久世殿城町162
営業時間：10：30～18：00
休 日：毎週水曜日・木曜日
TEL：075-921-8679



The Japanese Alpine Club
日本山岳会
会員証

公益社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4
TEL: 03-3261-4433 <https://www.jac1.or.jp/>

●旧会員証でも構いません●
日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします!

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで!

取扱いブランド | gan well | 音音 | cinelli | vittoria | HED. DOLAN | PINARELLO | LOOK | ANCHOR | SCOTT | FOCUS | Wilier | corratec など